Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 23第37号
2023年（令和五年） 12月29日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

12/14～12/20のNYMEX・WTI先物市場は71.43～74.22ドルの範囲で推移した。

12月21日は、アンゴラ政府が加盟していても得るものはないとしてOPECからの脱退を発表、OPECプラスにおける自国生産枠削減への抗議と見られ、産油国の結束の乱れが懸念され、反落した。前日の米国石油在庫の積み増し発表も、値下がり要因となった。2月物終値は前日比0.33ドル安の73.89ドル。

週末22日は、クリスマス休暇の3連休を前に利益確定売りが多く、前日のアンゴラのOPEC脱退と相まって、続落した。ただ、依然として、パレスチナのハマスを応援するフーシ派の紅海での船舶攻撃への警戒感、景気の底堅さを物語る米国経済指標の発表もあり、底値は固かった。2月物終値は同0.33ドル安の73.56ドル。

25日は、クリスマスの3連休につき、休場。

26日は、引き続き、フーシ派の船舶攻撃への警戒感を中心とする地政学リスクの高まり、米国の早期利下げ観測に基づく景気回復期待から、3営業日ぶりに大幅反発、ほぼ1か月ぶりの水準を記録した。2月物終値は、前日比2.01ドル高の75.57ドル。

27日は、大手海運会社が次々と紅海への航行を再開、原油供給への影響懸念が後退し、反落した。米国石油在庫報告の発表は、3連休の影響で一日遅れの28日となった。2月物終値は前日比1.46ドル安の74.11ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場（2月渡し）は、12月14日～20日の間、75.60～77.20ドルの範囲で推移。12月21日77.20ドル、22日78.00ドル、25日76.90ドル、26日77.60ドル、27日77.40ドル。

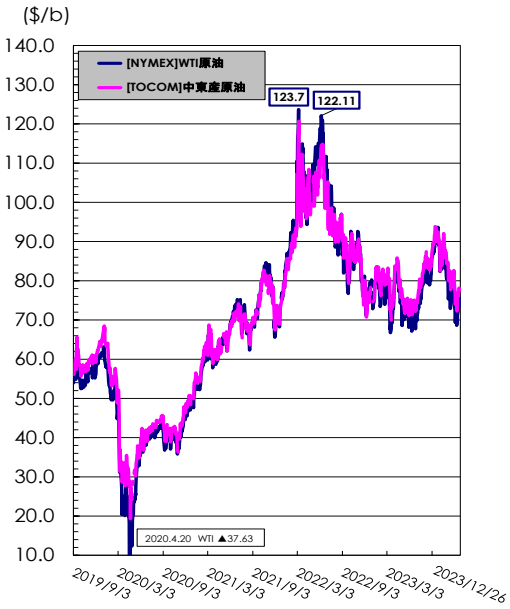
対ドル為替レート（TTM）は、12月14日～20日の間、142.20～144.03円の範囲で推移。12月21日143.48円、22日142.34円、25日142.22円、26日142.27円、27日142.79円。

財務省が12月27日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、12月上旬の原油輸入平均CIF価格86,385円で前旬比2,334円安、ドル建て92.11ドルで前旬比1.39ドル安、為替レートは1ドル/149.11円。

そのような中で、12月25日時点の価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同0.3円の値下がり、灯油は同1円の値下がり（18リットルベース）。ガソリンは9週ぶりの値下がり、軽油も8週ぶりの値下がり、灯油も5週ぶりの値下がりとなった、ガソリンの全国平均価格は175.0円となった。

12月28日～1月10日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は13.8円（補助金がない場合の次週予想価格188.6円で、従来の基準価格168円から高補助率適用価格185円までの17円部分は60%支給で10.2円、185円を超える部分は100%支給で3.6円）となった。

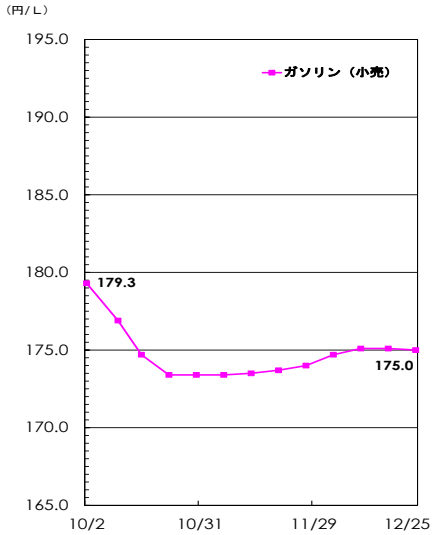
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	12/17 ～ 12/23	2,988	▼ -16	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	83.1	▼ -0.5	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	12/23	10,215	▼ -1,257	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	12/25	77.60	▲ 1.58	▼ -0.7
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	12/26	75.57	▲ 3.10	▼ -4.0
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	12月上旬	92.11	▼ -1.39	▼ -3.01
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	86,385	▼ -2,334	▲ 3,834
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	149.11	▲ 1.75	▼ -11.13
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	12/25	143.22	▼ -0.02	▼ -9.89



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/17 ～ 12/23	757	▼ -71	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	804	▲ 40	▼ –
	輸出		〃	115	▲ 23	▲ –
	在庫		12/23	1,545	▼ -162	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/19 ～ 12/25	78.2	▼ -0.2	▲ 4.4
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/19 ～ 12/25	81.0	➡ 0.0	▲ 2.0
		(TOCOM/中部)	12/25	79.0	➡ 0.0	▲ 4.4
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/25	175.0	▼ -0.1	▲ 7.1

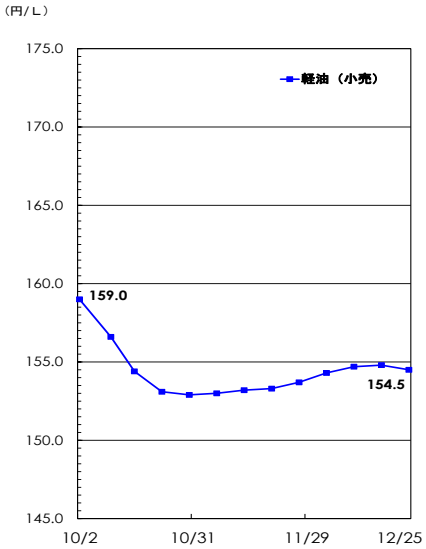
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

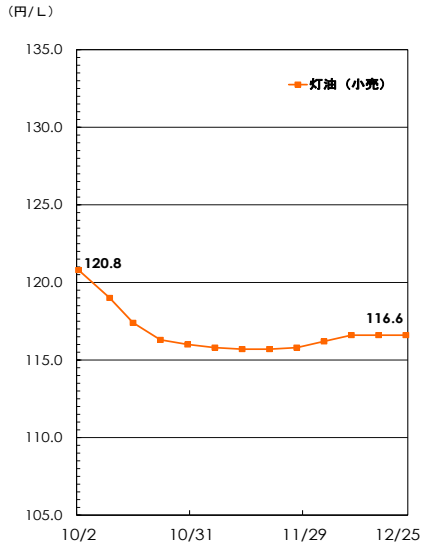
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/17 ～ 12/23	668	▼ -12	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	623	▲ 33	▼ –
	輸出		〃	129	▲ 57	▼ –
	在庫		12/23	1,259	▼ -85	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/19 ～ 12/25	78.8	▼ -0.7	▲ 3.1
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/19 ～ 12/25	82.0	▼ -0.3	▲ 5.6
		(TOCOM/中部)	12/25	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/25	154.5	▼ -0.3	▲ 6.5

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		12/17 ～ 12/23	282	▼ -30	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	504	▲ 167	▼ –
	輸出		〃	0	▼ -90	▼ –
	在庫		12/23	2,389	▼ -222	▼ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	12/19 ～ 12/25	80.9	▼ -0.6	▲ 3.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	12/19 ～ 12/25	81.7	▼ -0.2	▲ 3.0
		(TOCOM/中部)	12/25	80.0	▼ -1.0	▲ 2.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	12/25	116.6	➡ 0.0	▲ 5.5



■ 関連情報

1　海外/原油

当週（12月21日～27日）のWTI石油先物市場は、21日にアンゴラのOPEC脱退発表で反落の73.89ドルで始まり、週末22日は利食い売りでわずかに続落したが、連休明け26日は紅海の安全航行への懸念・米国の早期利下げ観測から3営業日ぶりに反発、27日は大手海運会社の紅海への運航再開で供給懸念が和らぎ反落74.11ドルで終わった。

12月22日時点の米国エネルギー情報局（EIA）の米国国内週間在庫統計は、クリスマスの3連休の影響で、一日遅れの28日の発表。市場では、原油・石油製品とも積み増しを予想している。

EIAによると、12月25日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比6.3セント高の1ガロン3.116ドル（117.8円/㍑）と14週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.0セント高と9週ぶりの値上がりの1ガロン3.914ドル（147.9円/㍑）。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、12月21日時点で、前週比3基減の498基と3週連続で減少した。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2023年12月17日～12月23日に休止したトッパー能力は10.5万バレル/日で、前週に対して横ばいだった（全処理能力は323.0万バレル/日）。

原油処理量は298.8万klと、前週に比べ1.6万kl減少。前年に対しては18.3万klの減少。トッパー稼働率は83.1%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては2.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてC重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/8.6%減、ジェット/0.0%減、灯油/9.5%減、軽油/1.8%減、A重油/0.9%減、C重油/12.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比9.9万kl減）。軽油の輸出は12.9万kl（前週比5.7万kl増）。

出荷（輸入分を除く）はA重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は80.4万kl（対前週5.2%増）と2週振りに増加した。ジェット10.3万kl（対前週58.4%増）、灯油50.4万kl（対前週49.4%増）、軽油62.3万kl（対前週5.6%増）、A重油22.0万kl（対前週8.5%減）、C重油19.3万kl（対前週12.5%増）。

（単位：千KL）

	今週 (12/17 ~ 12/23)	前週 (12/10 ~ 12/16)	前週比	
ガソリン	804	764	▲ 40	(5%)
ジェット燃料	103	65	▲ 38	(58%)
灯油	504	337	▲ 167	(50%)
軽油	623	590	▲ 33	(6%)
A重油	220	240	▼ -20	(-8%)
C重油	193	172	▲ 21	(12%)
合　計	2,447	2,168	▲ 279	(13%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

12月23日時点の在庫は全ての油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で減少した。

ガソリンは154.5万kl、前週差16.2万kl減。前年に対しては27.2万kl少ない。

灯油は238.9万kl、前週差22.2万kl減。前年に対しては2.1万kl少ない。

軽油は125.9万kl、前週差8.5万kl減。前年に対しては12.5万kl少ない。

A重油は70.1万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては1.5万kl少ない。

C重油は179.9万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては1.7万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (12/23)	前週 (12/16)	前週比	
ガソリン	1,545	1,707	▼ -162	(-9%)
ジェット燃料	756	786	▼ -30	(-4%)
灯油	2,389	2,611	▼ -222	(-9%)
軽油	1,259	1,344	▼ -85	(-6%)
A重油	701	713	▼ -12	(-2%)
C重油	1,799	1,812	▼ -13	(-1%)
合　計	8,449	8,973	▼ -524	(-5.8%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

12月19日～25日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、元売会社の卸価格建値は3.0円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額13.0円を加え、今週の補助金13.8円を差し引いた、12/28～1/10の実質卸価格は2.2円の値上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

12月19日～25日の製品スポット市況は、12月12日～18日平均と比べ、ガソリンの先物の横ばい、軽油の海上の値上がりを除いて、他の油種・取引で値下がりした。

直近週（12/19～12/25）の陸上スポット価格平均値は、前週（12/12～12/18）比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油も0.6円の値下がり、軽油も0.7円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（12/19～12/25）に、前週（12/12～12/18）比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油も0.1円の値下がり、軽油は0.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.2円の値下がり、軽油も0.3円の値下がりだった。

（RIM）　（単位：円/㌔ℓ）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週（12/19 ~ 12/25）	前週（12/12 ~ 12/18）	前週比
スポット価格	レギュラー	78.2	78.4	▼ -0.2
	灯油	80.9	81.5	▼ -0.6
	軽油	78.8	79.5	▼ -0.7

（TOCOM）　（単位：円/㌔ℓ）

[期近物/終値〔平均〕]		今週（12/19 ~ 12/25）	前週（12/12 ~ 12/18）	前週比
先物価格	レギュラー	81.0	81.0	➡ 0.0
	灯油	81.7	81.9	▼ -0.2
	軽油	82.0	82.3	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値　（12/19～12/25実績値）　（単位：円/㌔ℓ）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	➡ 0.0	▼ -0.1
灯油	▼ -0.6	▼ -0.2	▼ -0.4
軽油	▼ -0.7	▼ -0.3	▼ -0.5
A重油	▼ -0.5		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

12月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の175.0円、軽油は0.3円安の154.5円、灯油は18㌔ℓベースで1円安の2,098円（1㌔ℓベースでは横ばいの116.6円）。ガソリンは9週ぶりの値下がり、軽油も8週ぶりの値下がり、灯油は5週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが13県、横ばいは高知等7府県、値下がりが27都道府県だった。全国最安値は徳島県の168.4円、その次は宮城県の169.3円であった。他方、最高値は長崎県の184.9円。最も値上がりしたのは沖縄県（同2.1円高）、最も値下がりしたのは東京都（同1.6円安）だった。

次回調査時（1/9）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

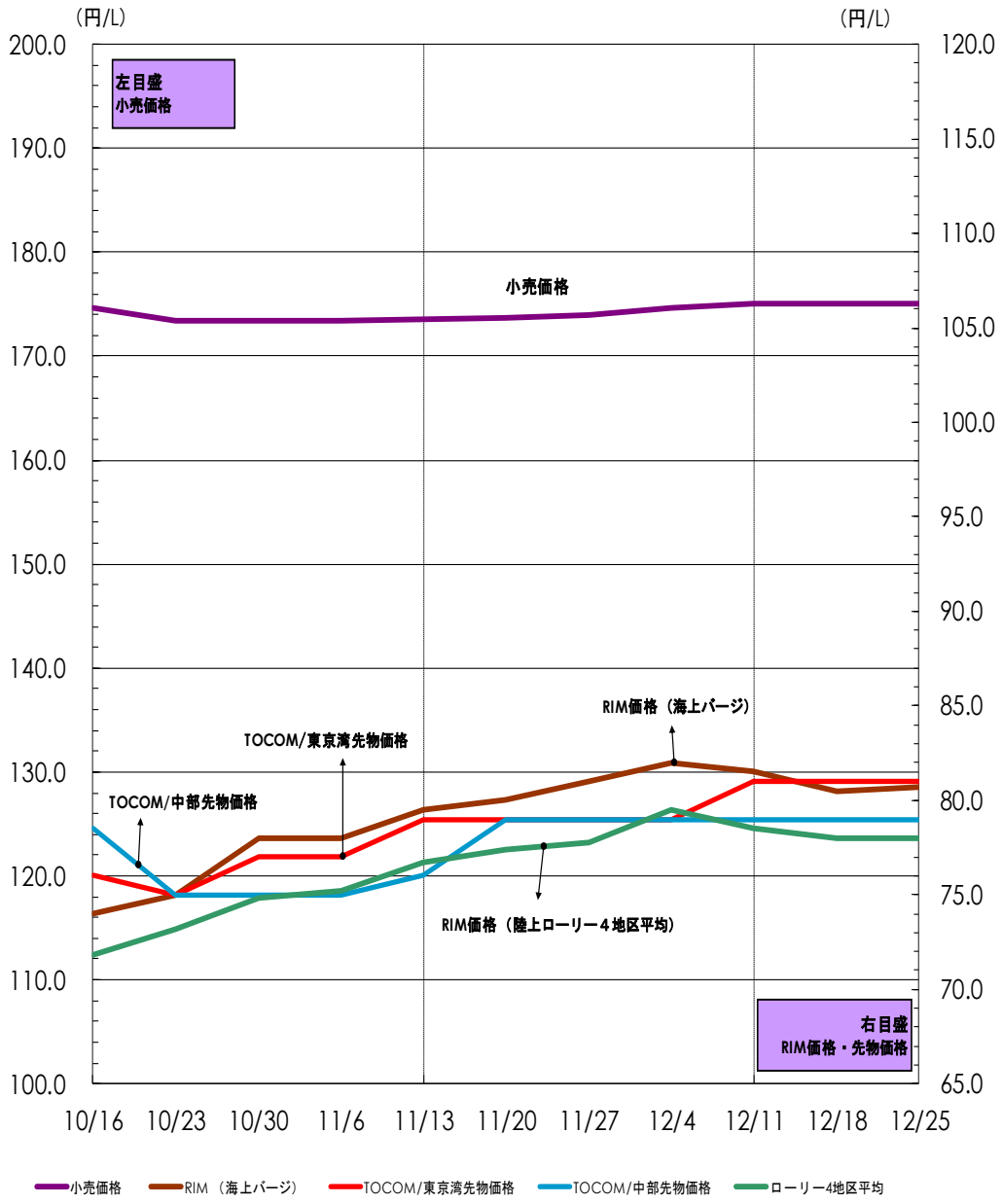
（単位：円/㌔ℓ）

（資エ庁公表）[週動向]		今週（12/25）	前週（12/18）	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	175.0	175.1	▼ -0.1	23/9/4	186.5
	灯油	116.6	116.6	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	154.5	154.8	▼ -0.3	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/10/16　～　2023/12/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格･TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2023第38号）の公表は、1/12（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。